



## 伝道支援キャラバン参加募集

中田明義兄：伝道委員会

私たちにとって、開拓伝道所の有無にかかわらず、開拓伝道は途切れず継続して行わなければなりません。この伝道支援キャラバンは教団内兄弟姉妹の相互支援の働きの一つです。伝道委員会は主催教会の伝道プログラムに他教会の兄弟姉妹が参加協力できるよう支援いたします。各教会での企画にご利用下さい。

委員会では下記の二点について募集いたします。

- ① 教団内兄弟姉妹の人的支援を希望する教会。
  - ② 応募教会の伝道活動に参加したい兄弟姉妹。
- 尚、教団から交通費の一部が援助されます。



応募先 伝道委員会伝道支援キャラバン担当 中田明義（武庫川キリスト教会）  
 連絡方法 携帯 090-9880-7809 fax 06-6417-4938  
 email [n\\_akiyoshi@hotmail.com](mailto:n_akiyoshi@hotmail.com)

## 2019 年度伝道委員会新役員紹介



下段左側から右へ 田畑雅紀伝道委員長（いずみ）  
 河野和雄兄（堺中央）退任  
 板倉由貴夫兄（泉北）書記新任  
 上段左側から右へ 中島若樹師 JMS（能勢川）  
 藤井義生副委員長（長瀬）  
 中田明義兄 会計（武庫川）

【編集後記】 皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目17-10-B TEL:072-762-5731

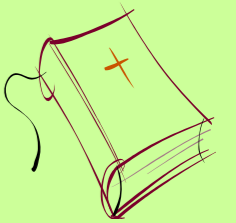
発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：板倉由貴夫(広報担当)

## 伝道ニュース 《特別号》



栗田 学師  
中高生キャンプ長  
(尼崎キリスト教会)

### 開拓伝道のビジョンを語る【16】



尼崎キリスト教会の栗田学です。開拓伝道ということを考える時に、私がまず、思い出すイエス様の命令と、それを実現していくための方法をお分かちさせていただきます。イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたが

たは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」マタイ28:18~20 これは、イエス様が最後に言い残して行かれた大宣教命令です。ここでイエス様は、「弟子としなさい」と命じられていて、イエス様の弟子とするために3つの方法が命じられています。「行きなさい」とあるように、教会の中に人を集める方法だけではなく、教会の外に「行って」神を求める人々と関係を作っていくことが求められているのでしょうか。どのように「行け」はいいのか、私もこの御言葉と向き合っているところです。「バプテスマを授け」とあるように、福音を伝え、心が開かれてイエス様を信じた人々には、弟子となる第一歩として洗礼を受けることが命じられています。洗礼はゴールではなく、スタートであり、イエス様が命じられた命令を「守るように教えていく」必要があります。ただ「教えなさい」ではなく、「守るように教えなさい」とあることから分かるのは、まず、私たちがそれを実践していく、それを行動と言葉で伝えていく必要があるという事です。イエス様は多くのことを命じられましたが、それを集約したような大切な命令があります。それが、互いに愛し合うことです。

「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」ヨハネ13:34

愛のない私たちがどのように愛し合えばいいのでしょうか。「わたしがあなたがたを愛したように」と命じられています。一人一人が、イエス様から激しい愛をもって愛されている、その愛を受け取り、その愛によって互いを愛することです。では、イエス様はどのように愛されたのでしょうか。私は、愛するために大切なことが2つあると思います。一つは、その人のために祈ることです。

「しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい。」ルカ22:32

イエス様は、十字架の前に、弟子のペテロがご自分を裏切ることを知っておられながら、ペテロのために祈りました。その祈りによってペテロは後に信仰が回復しましたし、イエス様は祈りの中で、ペテロが回復し、他の人を励ます存在となっていくことを信じておられました。私たちも、ある人のことを覚えて祈り続ける時に、その人への関心が生まれ、その人への愛が生まれてきます。また、全能なる神にその人のことを祈っているゆえに、その人を信じる心が与えられます。また、神様がその人のことをどう思われているのか、神様の御心を教えていただけることもあります。祈りには、大きな

力があります。そして、もう一つが仕えることです。仕えるとは、相手の本当の必要を満たしてあげることです。イエス様は、まさに私たちのために仕えてくださいました。

「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」マタイ20:28

弟子たちがイエス様に求めていた必要は、ローマ帝国からの解放でした。でも、イエス様は、本当の必要は、ご自分のいのちという代価を払って、人類を贖うことであることを知っておられ、その本当の必要のために仕えてくださいました。仕えられながら人は愛を感じます。その人のために祈り、その人の本当の必要に対して手を差し伸べることをしていく。それが互いに実践されている共同体は、互いに愛し合う事が実践されている共同体であり、どれだけ魅力的な共同体となるのでしょうか。このような共同体は、大人数の中ではできないので、小グループの中でこそ実践することができるでしょう。そして、祈りあい、仕え合うことは、キリストの弟子として歩いていこうと願っている者であるならば、誰でもできることです。尼崎キリスト教会の一部で取り組んでいる「家の教会」の集まりでは、4~10人くらいで家に集まって食事を食べます。その中には、ノンクリスチャンも入っておられますし、喜んで継続して来られています。月に何度も食事を共にすることで、特別な関係になっていきます。ノンクリスチャンが交わりに入ると雰囲気が変わり、嬉しくなります。またその人たちが神様に近づいて行ったり、信じていかれるのを見るのは大きな喜びです。だから、その家の教会の集まりのリーダーをされる方々は、ノンクリスチャンを何とかして誘いたいと願うようになります。そうする時に、聖徒たちが開拓伝道の心を持つようになっていきます。実際に1から教会を始めるのではなくても、このような自分の家を開放した献身の形もあると思います。伝道は、牧師の孤軍奮闘では決して進んでいきません。開拓伝道の心を持った聖徒たちと、聖徒たちを支える牧師、そこに働いてくださる聖霊様、その中で伝道が進んでいくと私は信じています。

## 2019 年度 SOAR ツアー報告

伝道委員会 (JMS) :: 中島若樹師 (能勢川キリスト教会)

今年3月21日~30日にカナダのマニトバ州ウィニペグで開催されたソアープログラムに日本から中島隼登兄(能勢川教会)、ギースプレクト・コーリー宣教師(石橋教会)、中島(伝道委員会)の3名が参加しました。日本MBはマルチプライ(北米MB宣教局)との宣教協力により過去10年以上に渡って夏にアクションチームが日本に短期宣教に来ていますが、今回、「日本からのチームが北米に来て共に仕えてはどうか」という

北米からの招きに応じてソアープログラムへの参加が実現しました。日本からのチームは、マルチプライの方々と共に現地のユースに温かく迎えられました。隼人兄はソアープログラムの参加のための祈りと支援、英語の理解やコミュニケーションの心配もありましたが、必要な支援が与えられ、現地のユースグループに加わり、多くの貴重な体験をしました。

ソアープログラムは17年前にロイドとキャロル・レクマ



ン夫妻がメキシコのある町にユースを連れて短期宣教の働きをしていた時に、2人の住む地元ウィニペグにさまざまな必要があるという神様からの思いが与えられ始まったそうです。それ以来ソアープログラムは地域の必要に応える働きをしている個人や教会やノンクリスチャンの団体と関係を築く中で、その働きにユースグループが加わり仕えるかたちで続けられています。それでも今回のソアープログラムで出会った方の一人は、「さまざまな種類の教会が地域の人々に目を向けていますが、関わっている教会は少ない状況です」と話していました。ユースがソアープログラムに参加することで地域にある必要を知る機会ともなっています。



毎年カナダのいくつかの場所でソアープログラムは行われています。グループリーダーのもとでグループは10日間行動を共にします。そこでは地域を知る機会があり、毎日の礼拝、奉仕や楽しい活動を行います。毎日ただ忙しく働くのではなく、お互いを知り、神様との時間を持ち、グループで奉仕し、ソアープログラム後の生活への心備えもします。10日間の日程の始めにそれぞれのユースグループは、ラーニングツアーに歩きで出かけウィニペグのいくつかの場所を回り、貧困やアルコールや薬物などの問題の多い地域、移住民や先住民の多い地域のさまざまな必要がある人たちに関わっている人々の話を聞きました。個人、家庭、

教会、救世軍などが行政の協力なども利用して主イエス様の愛により仕えている姿が印象的でした。今回のソアープログラムの視察を通して、遠く外国に行く宣教の在り方のみでなく、地域のさまざまな必要を知ることや、すでに地域で仕えている個人や教会や民間の団体などの協力による宣教の可能性を見ました。

ソアープログラムの中心の年齢層は14歳~18歳ですがリーダー的なサポートとして大学生以上の参加も可能です。伝道委員会から来年以降も募集をする方向で検討しています。最後になりましたが、コーリー宣教師とご家族、日本に度々来られていますアダム・ストロング兄、マルチプライの皆様大変お世話になりました。また、日本MBの皆様のお祈りとご支援を心から感謝します。

## 2019 カナダ宣教チームプログラム

伝道委員会 (JMS) :: 中島若樹師 (能勢川キリスト教会)

この夏、マルチプライ(旧MBミッション)の協力によりカナダのサシュカチュワン州の教会から中高生とリーダーたちを含め10名のチームが日本に来ます。来日するチームは過去継続日本に来ているアクションチームよりも年齢層の若い中高生とリーダーたちで、7月19日~7月29日までの10日間の滞在となります。オリエンテーション、礼拝、イングリッシュキャンプ、京都観光、MB教会での活動などを予定しています。26日(金)~28日(日)にチームは3つグループに分かれ、小牧ホープチャペル、堺中央教会、能勢川教会と他1教会にて奉仕予定です。

